

宮崎県勢が初の頂点

フェニックスCCがV

5選手全て70台の好スコア



ついにと言うか、ようやくと言うか、フェニックスCCが頂点を射止めた。2位の大分竹中に4打差の382。6選手のうちベスト5人のスコアを合計するのだが、いずれもが70台の安定プレー。「優勝を目標に頑張ってきたので本当にうれしい」と本田豊明キャプテンが喜びを素直に表現した。

これまでの最高成績は2013年の2位。最近の9年間で8度も出場しているが、1位の

座は遠かった。昨年はチームの中心選手である成松和幸と宮島孝美を欠きながら9位に食い込み、優勝への予感が漂ったのも事実。今年になると、今大会制覇へ向けての準備を開始した。3月から選考会を行い、まずは上位8選手を選出。それからクラブチャンピオンの本田と、スコア上位5人の計6人に絞る。毎週日曜日には練習を繰り返し、各自が意見を出し合うなどして技術向上に努めた。これら絶え間ない努力が初優勝につながった。

今回、チームのベストスコア73を出した山内浩二や75の宮島らは期待に応えたが、今年の九州シニアチャンピオンでポイントゲッターでもある成松は前半のアウトを43とつまずいた。「一時はどうなるかと。1~2打差で負けたら、どうしようかと思っていました。勝ってホッとしました」と胸を撫で下ろした。後半のインはパープレーの36で回るあたりはさすが。仕事の関係で試合当日の早朝にコース到着。いきなりのラウンドで43も仕方がなかったかもしれない。

フェニックスにとっての初Vは、宮崎県勢にとっても初の栄冠。「応援に来たカイがありました」と田村三千雄総支配人も相好を崩した。

【写真右は開催コースの白杵CC】



【写真左は表彰式】

6年ぶり2度目のベストグロス賞

荒川英二(福岡雷山)が69



2013年の熊本空港CCでの第43回大会以来2度目のベストグロス賞獲得。インからスタートした前半を3バーディー、2ボギーの35、アウトは3バーディー、1ボギーの34で回り、参加選手中ただ1人、60台の69をマークした。「ショットが良かった。(九州)ミッドアマの2日目からショットがいいんですが、調子を維持

しています」と表情は明るい。九州ミッドアマでは3度の優勝を誇るだけに、看板通りの実力を披露した。

福岡雷山は2年連続の優勝を逃したものの、昨年の竹本に続き、個人でのベストグロに輝いた。「ベストグロの雷山をアピールできましたね」。来年の大会は芥屋GC(福岡)で開かれる予定だが、果たして3年連続となるか。